

◇ 西 田 祐 子 君

○議長（小西秀延君） 5番、西田祐子議員、登壇を願います。

〔5番 西田祐子君登壇〕

○5番（西田祐子君） おはようございます。会派ひかりの西田祐子でございます。本日は大きく2点質問させていただきます。

1. 町民の暮らしを守る。

(1)、物価高から町民生活を守る対策について。

①、非課税世帯と子育て世帯の現状と課題について。

②、物価高により厳しい状況にある生活者を守る白老町独自の対策について。

③、生活困窮者への灯油購入などの助成について。

(2)、石山地区の治水対策について。

①、近年の大雨による浸水被害の状況及び対策について。

②、ウヨロ川・ブウベツ川の現状と課題に対する町の見解について。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

〔町長 大塩英男君登壇〕

○町長（大塩英男君） 「町民の暮らしを守る」についてのご質問であります。

1項目めの「物価高から町民生活を守る対策」についてであります。

1点目の「非課税世帯と子育て世帯の現状と課題」についてであります。3万円を支給する物価高騰対策低所得世帯支援事業は、令和5年6月1日時点で本町に住民登録があり、令和5年度分の市町村民税非課税世帯の世帯主を支給対象としております。対象となる世帯は3,431世帯で、7月21日から対象者へ案内を発送し、提出された確認書等の審査後随時支給しました。確認書等の提出期限となる11月30日現在、既に支給した世帯を含め3,379世帯が支給手続きを終えております。

また、令和5年度ひとり親世帯以外の子育て世帯生活支援特別給付金事業は、児童手当受給者などの養育要件や家計急変者などの所得要件に該当する者に対し給付するもので、5月より事業を開始し、11月30日現在申請不要の積極支給88件、申請支給18件、合計106件530万円の給付となっております。そのうち約9割が6月支給で、申請期限である来年2月末まで、その都度迅速な対応を図ってまいります。

課題としましては、物価高が依然として厳しい状況の中、町民生活の家計への負担が増していることであると捉えております。

2点目の「物価高による厳しい状況にある生活者を守る白老町独自の対策」についてであります。昨年から続く物価上昇が長期化する中、物価高騰の影響を受けている生活者の負担を軽減するためにはどのような対策が必要か、本町の実情を踏まえながら、本町独自の対策に取り組んでいく考えであります。

3点目の「生活困窮者への灯油購入などの助成」についてであります。物価高騰対策低所得世帯支援事業については、本年夏以降、住民税非課税世帯に1世帯あたり3万円の支給を行っており、このたびはさらに7万円を追加し、合計10万円の支援を行うこととされたものであ

ります。

本町においては、灯油購入などへの助成の考えはありませんが、各世帯におかれましては、本給付金を灯油購入などの経費に活用いただくよう考えております。

2項目めの「石山地区の治水対策」についてであります。

1点目の「大雨による浸水被害の状況及び対策」についてであります。大雨や洪水警報が発令された浸水被害の状況は、令和元年度が1回、2年度はなく、3年度が2回、4年度が3回となっており、いずれも全町的な道路の冠水や住宅地の浸水等の被害が発生しております。

特に、石山地区では、大雨による道路冠水が度々発生していたことから、ライラック団地の排水路流末に排水ポンプを設置し、氾濫被害の軽減対策に努めているほか、4年度には水位センサーや監視カメラなど、WEB上で監視可能なシステムを導入し、水位上昇時における初動の迅速化を図っております。

2点目の「ウヨロ川・ブウベツ川の現状と課題に対する町の見解」についてであります。ウヨロ川では平成30年度から調査設計に着手し、現在は築堤・掘削・樋門・排水等の工事のほか、次年度以降に向けた調査設計を継続的に進めております。

また、ブウベツ川では30年度から本体工事に着手し、令和4年度は掘削・護岸工事、今年度は護岸・樋門工事を進めており、今年度で事業が完了する予定となっております。

町といたしましては、大雨による町民への被害を最小限とするための取組を実施しておりますが、北海道に対しましても、町民の安全・安心のため、整備計画に基づく多角的な治水対策を今後も着実に推進いただけるよう、引き続き強く働きかけていく考えであります。

○議長（小西秀延君） 5番、西田祐子議員。

〔5番 西田祐子君登壇〕

○5番（西田祐子君） 再質問させていただきます。

まず最初に、町民の暮らしを守るということで非課税世帯と子育て世帯に対しての給付があるということで、特に11月末に国会で議決されて1世帯当たり7万円が支給されるわけなのですけれども、今月15日の議案にもこれが提案されております。そこで、お伺いしたいのですけれども、予算成立後速やかに支給のお知らせを送付し、その後一定期間口座の変更や受け取り辞退を申し出る期間を設け、届出がないことを確認し、口座振込にて給付との説明がありました。先ほど町長の答弁の7万円の給付で灯油購入経費に活用いただくようにとおっしゃっていますけれども、もう12月中旬になっております。実際にこの給付が受けれるのは一体いつ頃なのかお伺いしたいと思います。

また、ほかの自治体では閣議決定された時点でホームページにぼんと載せて、こういうお金がありますと、自分のまちではこのように手続はしたいと思っていますけれども、こういう手続がこれからありますよと、こういうものを得たら速やかにお金を出しますので、それが決定しましたら町のほうでまた再度ホームページなり皆さんにお知らせしますから、速やかに手続してくださいというようなPRもきちんとしているわけなのですけれども、その辺の考え方についてお伺いします。

○議長（小西秀延君） 渡邊健康福祉課長。

○健康福祉課長（渡邊博子君） 物価高騰対策低所得世帯支援事業についてお答えさせていただきます。

この事業につきましては、11月末に国の予算が成立しまして、12月に国から詳細について示されてきたところであります。本町の予算につきましては15日の補正予算で議決をいただく予定となっておりまして、その議決をいただいてから速やかに事業を開始できるように今できるところは準備を進めているところでございます。15日の議決いただいた後早急に、まず対象となる方を確定するため名簿の整理をさせていただこうとは思っています。ただ、誤支給がないように確実に名簿作成したいと思っておりますので、確認作業やチェック作業も慎重に行いながら進めていきたいと思っております。年内には対象となる方にお知らせ文書が届くように準備を進めていきたいと考えております。今回は3万円の給付金を支給された方にはプッシュ型といって申請不要の支給方法を考えてございますが、その受給する意思があるかどうかというところで一定の期間を設けて、受給拒否がないことを確認してからお金を振り込む手続となりまして、その期間も含めて早くても1月中旬以降で予定は立てておりますが、一日でも早く支給できるようにスピード感を持って作業を進めていきたいと思っております。

あと、ご指摘いただいたホームページにこの事業の掲載が今のところないということがございますけれども、これは15日の予算成立後速やかに掲載、またその前にでも掲載できるようにしたら早急に、事業のPRのためにも掲載できるように取り組んでいきたいと考えてございます。

○議長（小西秀延君） 5番、西田祐子議員。

〔5番 西田祐子君登壇〕

○5番（西田祐子君） 春にいただいた3万円のときも6月末時点で住民票が確定されて、その後支給ということで、いただく方々にしてみたらこの物価高騰でとにかく大変な思いをしていらっしゃる。その思いが強過ぎて、役場がきちんと手続してくださっても結局は来るのが遅いというイメージがすごく強いのです。このイメージというのはほかの自治体も多分同じだと思うのです。そのイメージを大丈夫だよ、きちんと出すからね、期待して待っていてねという意味で、それでホームページにきちんと出しているのではないかと私は思います。そして、そのホームページで言っていることは政府で閣議決定した段階でもう手続に入っていると、要らない人は先に申し出てくださいと。まだ議決されていないのです。国会もまだ通っていないけれども、それぞれの市町村の議会でも議決されていないけれども、そうなると思えますから、要らないよという方とかいろいろな方々は先に申し出てくださいとやっているわけなのです。それをやることによって自分たちが間違いなく近いうちにいただけるのだという安心感を与えているのではないかと私は思っています。ですから、せっかくやっても遅いと思われるのか、一生懸命今手続してくれているのだ、もうすぐもらえるのだという期待感につなげるのか、そこところがせっかく一生懸命頑張ってやっても町民の受け止め方が違えばとても残念なことになるので、ぜひ早急に考えていただければありがたいし、これからの対策に対してもそういうところをうまくPRして、町民の心に期待を持たせるような、そういうような政策につなげていただければありがたいなと思うのですけれども、もう一度お聞きします。

○議長（小西秀延君） 大黒副町長。

○副町長（大黒克己君） 西田議員のお話を聞きまして非常にありがたいお言葉だなと思っていました。これまで我々のそのような事業の町民に対しての通知というのは、もちろん予算があれば予算の議決を待ってとか、そうやっていたところでございますけれども、確かに国がそういう方針を示して、町民の皆さんが早くそういう対応をしてほしい、早く給付してほしいという、そういう気持ちが強いということであれば、議会の皆さんのお許しをいただきながら、予算前であっても事前にホームページ等で周知して、その手続を早めに行うということが可能であればぜひそのように今後進めていきたいと思っておりますし、今回の事業に限らず様々なことでそういうことがあると思うのですが、そのようなことで、あまり前のめりになるのもだめですが、その辺は慎重にやりますけれども、このような国の方針が示されたものについては早期に町民にお知らせさせていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

○議長（小西秀延君） 5番、西田祐子議員。

〔5番 西田祐子君登壇〕

○5番（西田祐子君） 副町長から前向きな答弁をいただきまして、町民を代表しましてありがたいなと思っていますので、ぜひとも速やかに手続していただいて、早めに受け取れるようにお願いしたいと思います。

次に、各自自治体での子育て世帯の支給についてなのですが、前回の打合せのときもちょっとお話をしたのですが、様々な自治体の子育て世帯に対していろいろなことをやっていたら、まず、埼玉県の子育て世帯では18歳まで10万円の給付をしますと。2万円給付するところが豊島区とか栃木県さくら市とか、旭川市でも2万円出すと。1万円とか1万5,000円。大阪府でプリペイドカードをやりますとか、17歳まで1万円出します、中学生まで3万円出します、未就学児まで幾ら出しますとかという、ちょっとインターネットで調べるとどんどん子育て世帯に対する給付を独自に行っているところが多いのです。これは非課税世帯もそうでない世帯も関係なく行っている自治体が多いと思います。室蘭市でも来年の春より所得にかかわらずゼロ歳から2歳児までの保育料を1割引き下げますと。各自自治体は危機感からスピード感を持っていろいろなことをやっていたら、昨日も議員からありましたけれども、子供のことにきちんとお金をつくと、出すと、そういうような自治体が多いのですけれども、白老町でも何かやるようなことを答弁いただきましたけれども、その辺の考え方、どうかじを切って持っていくのか、子育て世帯にお金をきちんと出すような政策にしていくのか、そうではないのか、全世界帯を対象にするのか、その辺のお考えがもしあればお伺いしたいと思います。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 物価高騰から町民を守るということで、子育て世帯の他自治体の事例を西田議員からご指摘をいただきました。子育て世帯の給付について物価高騰という観点からお話をさせていただきますと、これまで町で昨年度子育て世帯1万円の給付ですとか、そのようなことで経済的な支援というのはやらさせていただきました。ここ最近では物価高騰対策ということで町民の全世界帯に商品券を配布させていただいている事業を今年度と昨年度でやらさ

せていただきました。これは物価高騰として捉えたときに、いろいろと内部で議論した中で、もちろん低所得者世帯、高齢者世帯、そして子育て世帯ということで、この物価高騰でいろいろと町民生活が苦勞されているというのは私たち十分認識しているところなのですけれども、物価高騰として考えたときに、これってどこの世帯もだよねという観点から全世界帯に対する支援ということでやらせていただいておりますので、これが果たしていいのか悪いのかということで、またこれは立ち返ってもう一度内部でも議論した中で今後の物価高騰対策は進めさせていただきますと考えております。

○議長（小西秀延君） 5番、西田祐子議員。

〔5番 西田祐子君登壇〕

○5番（西田祐子君） もう一度どなたにこういう給付をするのが一番適切なのか、ぜひ内部で検討していただければと思います。

その中で、もしいろいろな形で給付するのであれば、現金も大事なのですけれども、大阪辺りなどでは、先ほど言いましたけれども、プリペイドカードなどを使っていると。今まで白老町で商品券とかというのがあって、1,000円券とか500円券というのがありましたけれども、あれは使い勝手がいいようで悪いのです。結局500円券だったら足りない分はお金を出すとか、だけれども1,000円券を使ってしまうとお釣りが出てこないとか、プリペイドカードだとその金額分だけ使えるから、使うほうとしてはすごく便利なのです。そしてまた、印刷したりなんかしたりする手間もないし、そういうようなことを考えたときにぜひ白老町もほかの自治体の動向などを見て、これだけ白老町も自分のまちだけ使えるお金と限定してしまったら、本当に何が必要なのかというのが分からなくなってきてしまうのです。例えば私は高齢になってきてはいるのですけれども、一応町会議員という立場でこうやって議場に座らせていただくときに、スーツは白老町に売っていないのです。職員の皆さん方もそうだと思うのです。子供たちも同じなのです。いろんな家庭の方々も白老町ばかりで買えるわけではなくて、隣近所のまちに行って購入しなければならぬものも結構あるものですから、そういうときにも使えるようなものもこれから少し考えていって、また職員もいろいろな手間をかけなくて済むような最善の方法でやっていくということがこれから大事なのではないかなと思うのですけれども、その辺のお考えを伺ってこの質問を終わらせていただきます。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） ただいまのご質問にお答えさせていただきます。

商品券はちょっと使い勝手が悪くてプリペイドカードというような西田議員からのご提言もいただきました。確かにそういった部分についても今後町として考えていかなければならないかなとは捉えさせていただきます。ただ、一方では物価高騰対策というようなことでいきますと、もちろん町民の皆さんの経済的な支援ということもあるのですけれども、これは町内の商工事業者に対する支援という両方に、この商品券事業というのはやらせていただいております。そういった中では町内での消費の喚起というような部分も含めなければならないということと、あとはプリペイドカード式となってくると事業者様のご協力もいただかなければならないという観点もありますので、その辺は総合的に考えた中で今後いろいろと考えていければな

と思います。

○議長（小西秀延君） 5番、西田祐子議員。

〔5番 西田祐子君登壇〕

○5番（西田祐子君） 2点目の石山地区の治水対策についてです。先ほど答弁の中で胆振総合振興局の室蘭建設管理部では白老川水系流域治水プロジェクトとして工事をしてくださっていて、今後も力強くお願いしていくというような答弁をいただいて、私はそうだなと思います。ぜひともこれからもこの地区の治水対策について北海道に強く要望していただければと思います。

そういうことの観点で1つ提案がございます。ウヨロ川、ブウベツ川周辺には温泉付住宅があります。ここの温泉付住宅というのは、非常に全国的にも白老町というのは珍しい地域で、これだけ温泉付住宅がある地区というのは多分日本でも白老町くらいと言われています。そういう中で、近年は千歳市や苫小牧市への企業進出に伴って住宅地の引き合いが増加しております。これは千歳市とか江別市とか向こうのほうに行っているケースが結構多くて、苫小牧市から白老町にかけての話にはあまりなっていません。ただ、千歳市の不動産屋の話によりますと来る方々というのはそれなりの高収入の方々なので、いい場所を探していると、そういうお話も聞いております。白老町は豊かな温泉資源を生かして石山地区をきちんと整備して、移住定住誘致活動に結びつけていくことが人口減少対策の第一歩ではないかと思うのです。高速道路から行っても石山まで大体5分から、一番奥まで行っても10分もかからないと思うのです。非常に立地的にもすばらしい場所だと思うのですけれども、そのところを町としてもPRして、ぜひ移住定住誘致活動に力を入れていただきたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○議長（小西秀延君） 富川政策推進課長。

○政策推進課長（富川英孝君） 移住定住の関係でございます。我々も北海道のみならず、東京都ですとか、大阪府ですとか、そういった移住フェアというところに出展しながら道内外からの移住者の獲得に向けて取組を進めているというような状況になっております。そういった中では本町の売りとしては自然ですとか、食ですとか、温泉ですとかというような中で温泉付の分譲地というのが町内に多く点在していると。そういったところでは移住フェアにも不動産屋と一緒に伺わせていただいて、温泉付の物件ですとか、そういったお話に及んだときにしっかりお話ができるような体制では取組を進めておりますので、温泉付の分譲地、そういった家にいながら温泉に入れる環境というのは移住定住の中では一つの売りとして我々も取組を進めているというところでございます。

○議長（小西秀延君） 西田議員、通告が治水対策ですので。

○5番（西田祐子君） 治水対策をして、そしてここを売り出していくべきだという話なので。

○議長（小西秀延君） 少し離れていますので、気をつけてお願いします。

5番、西田祐子議員。

〔5番 西田祐子君登壇〕

○5番（西田祐子君） 温泉付住宅のこともそうなのですが、工業団地も実際はこの

ところの治水対策がきちんとできなければ工業団地としての価値も下がってしまうし、また温泉付住宅地としての価値も下がってしまうと。だから、ここをきちんと治水対策をしてほしいというのが一番の目標です。だけれども、治水対策をきちんとしていく上で白老町としてできることはこの地区を企業誘致したり、住宅地にしていくべきではないかというのが私の考え方です。ただ単に治水対策だけ、何のためにするのかといたら、このところがとても大事だから、ぜひ治水対策に力を入れてほしいという質問でした。そういうことでこの質問を終わらせていただきますけれども、何か答弁があればお願いします。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 石山地区の治水対策というご質問でございます。西田議員がおっしゃるとおり、治水対策というか、治水対策は地域の住民の方の安全、安心につながるというようなことになろうかと思えます。住んでいる方が安心、安全だということは地域の魅力化アップということにもなりますので、この部分は1答目で答弁させていただいたとおり、しっかりと私を含めて町としてこの治水対策については北海道に強い働きかけをしていきたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 5番、西田祐子議員。

〔5番 西田祐子君登壇〕

○5番（西田祐子君） 次の質問へ行きます。

2. 元気まち情報館について。

(1)、四季彩街道の年間交通量（開通時と冬季夜間閉鎖時）について。

(2)、ホロケナシ駐車公園及び公園内トイレの現状と課題に対する町の見解について。

(3)、元気まち情報館の管理・運営の現状と課題について。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

〔町長 大塩英男君登壇〕

○町長（大塩英男君） 「元気まち情報館」についてのご質問であります。

1項目めの「四季彩街道の年間交通量」についてであります。

令和3年に北海道開発局において交通量調査を実施した結果、秋期の24時間の交通量は2,915台でありました。

また、前回平成27年の結果と比べ146台、7%の減少となり、コロナ禍の影響があったものと推察しております。

なお、冬季間の交通量につきましては、北海道においても調査されておられませんので、公表できるデータはございませんが、冬季間であることからさらに少ないものと思われます。

2項目めの「ホロケナシ駐車公園及びトイレの現状と課題」についてであります。

北海道で管理しております駐車公園及びトイレにつきましては、清掃及び見回り点検など十分に管理されている状況であります。

また、車などで移動される方々の憩いの場として活用されており、今後も誰もが安心して利用していただけるよう引き続き管理していただけるものと捉えております。

なお、課題につきましては、適切に管理されていることから現状では伺っておりません。

3項目めの「元気まち情報館の管理・運営の現状と課題」についてであります。

平成10年の道道白老大滝線の開通に合わせ設置された元気まち情報館ですが、現状では館内に観光パンフレットやイベントなどのチラシを設置するなど情報発信を行っております。

課題につきましては無人のため、問い合わせが出来ないことや冬季間は閉鎖していることから情報発信が出来ない状況にあると捉えております。

○議長（小西秀延君） 5番、西田祐子議員。

〔5番 西田祐子君登壇〕

○5番（西田祐子君） 元気まち情報館は、ホロケナシ駐車公園の中のトイレと同時に冬期間は閉館していますが、ただ冬期間はあそこの道路については日中は通行できる状況になっています。ですけれども、駐車場が閉鎖になっているので、そこの元気まち情報館が使える現状があると。そういうところの中で冬期間の観光案内をどのように考えるかといったときに、元気まち情報館でインターネットの環境を整えることはできているのかどうなのか、その辺をお伺いします。

○議長（小西秀延君） 工藤経済振興課長。

○経済振興課長（工藤智寿君） こちらのインターネットの環境といいますと、多分フリーWi-Fi等の環境の整備ということなのかなとお聞きしましたけれども、現在は整備されていないということでございますので、今後につきましてはそういった利用者の声といいますか、そういったニーズの中で今後議論していきたいなと考えているところでございます。

○議長（小西秀延君） 5番、西田祐子議員。

〔5番 西田祐子君登壇〕

○5番（西田祐子君） 白老観光協会では今年7月24日付で観光地域づくり法人形成・確立計画というものをつくっております。地域のDMOの中に観光資源磨きとして元気まち情報館管理事業が挙げられています。これを磨き上げていくということになっているのですけれども、具体的にどのようなことを磨き上げられるのかお伺いします。

○議長（小西秀延君） 工藤経済振興課長。

○経済振興課長（工藤智寿君） 観光磨き上げ、地域DMOの申請、観光地域づくり法人形成・確立計画のことでお話をされておりますけれども、ここで言う観光の磨き上げという部分は、トータル的に言いますと観光振興の一言に尽きるのかなということになってくるかと思えます。観光振興は様々な観点でいろいろな事業をさせていただいておりますけれども、例えば誘客活動であったり、情報発信であったり、様々な事業に取り組みさせていただいている中において観光の魅力発信という部分も含めて磨き上げというような中になってくるかと捉えているところでございます。

○議長（小西秀延君） 5番、西田祐子議員。

〔5番 西田祐子君登壇〕

○5番（西田祐子君） 地域DMO、観光協会が作っているものの中の資料を見ますと、白老地区内までの交通はJR、または船、車、いろいろありますけれども、札幌市からのアクセスがいいと。それは、高速道路を使ってとかJRを使ってということが述べられております。で



すが、実際には皆さん方が旧大滝村を歩いていくあの道を使うときには、大抵は札幌市に行ったり来たりするときに使っていると思うのです。札幌圏の方々も白老町に来るときに恵庭岳の裾を歩いて支笏湖を半周し、そして三階滝を見て白老町まで遊びに来ると。1つの楽しいドライブコースになっています。このところを見ていただくと、先ほども答弁がありましたけれども、1日24時間の交通量が2,915台というのは、山の中ですけれども、そこそこ走っていると思うのです。そうなってくると、このところのドライブコースの中に元気まち情報館があるわけなのですけれども、豊かな森とすばらしい景観を持つ四季彩街道の元気まち情報館は、観光のまちを目指す白老町にとっては非常に重要なところだと思うのですけれども、なかなかそれがうまく今まで活用されていない。私も記憶がありますけれども、平成10年のときに華々しくあそこのところでテープカットをして、いろいろな事業をやったのを覚えております。それがいつの間にか元気まち情報館ってどこにあるのみたいな、四季彩街道ってどこなのと町民から聞かれるような状況になってはもったいないと。特に町民から本当にもったいないという声をこの選挙のときに何人かから言われました。私はここをきちんと活用していくべきだろうなと思います。

近年は森野地区にある民間のレストランやキャンプ場で非常ににぎわっているとも聞いております。この宝の山である場所を何もせずにいるのがもったいないので、活性化の一助としてマルシェやファーマーズマーケット、青空市などのイベントでまちを盛り上げてほしいと、白老町のまちの今お金がないから大変だとかと言っている、景気が悪いとかと言っているこの閉塞感を何とか打破してほしい、そういう町民の声があります。最後になりますけれども、このような町民の声をどのように受け止めますか。今後元気まち情報館を活用する考え方について質問させていただきます。

○議長（小西秀延君） 工藤経済振興課長。

○経済振興課長（工藤智寿君） 元気まち情報館を含めたホロケナシ駐車公園の活用をというお話でございました。ちなみに、私どもで調べましたら森野地区、お話にありました民間のキャンプ場やレストランがにぎわっているというお話もいただきましたけれども、お客様の入り込みでいきますと令和4年度においては4万3,000人、令和3年度においては4万5,000人というお客様がお越しになっているということで、非常に多くの方に、先ほどの交通量のお話もありましたけれども、活用されているということもありますので、今マルシェやそういったようなお話もございましたけれども、今まで町としましても様々なイベントを町内外で、それから民間団体の方もいろいろ計画されてやられている部分がございます。また、昨年度の話になりますけれども、森野地区でフェス、そういったイベントを実際に券まで販売してやるというときにコロナの影響でやむなく中止になったという事例も実はございました。そういうことも含めて、町がやるとか民間団体がやるとかということではなくて、有効に活用するという考え方は当然持っていかなければならないと思っていますので、それぞれの目的であったりとか、手法ですとか、にぎわいづくりにはどうしたらいいかということをや一度確認しながら、課題となっており足確保とかという部分も重要になってくるかと思っておりますので、そういうことも総合的に勘案しながら進めてまいりたいと考えているところでございます。

○議長（小西秀延君） 以上をもって5番、西田祐子議員の一般質問を終結いたします。